

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設名	ミアヘルサ保育園ゆらりん下目黒
施設所在地	東京都目黒区下目黒6-18-11
法人名	ミアヘルサ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

【自然】魚、命をいただくこと

<テーマの設定理由>

本園では、魚屋とイタリア料理店を営む「おさかな先生」を招き、魚を丸ごと使った体験的な学びの機会がある。魚の話聞き、泳ぎ方や体のつくり等の生態を知り、目の前で捌き、最後に食べるという経験を通して子どもたちは魚を「食べ物」としてだけでなく「命」として実感できる環境が整っている。また、日頃から魚に強い関心を示す子どもの存在や、園内行事のお店屋さんごっこで寿司屋を選び、解体ショーを再現しようとする姿も見られ、魚や食への興味がクラス全体に広がっていると判断した。これらの園の強みと子どもの関心を生かし「魚」と「命をいただくこと」を探究テーマとした。

2. 活動スケジュール

7月園内行事で行うお店屋さんの内容について話し合いを行う

8/27 園内行事当日、寿司屋の店員として参加する

10/15・11/20・2/26 魚屋を営む「おさかな先生」を招き、当日の魚の出荷場所や魚の生育などを教えてもらい、目の前で魚を捌く様子を見た後に食べたり魚についての話を聞いたりして、命をいただくことについて学ぶ

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具) 図鑑や絵本を手にとれるよう配置した。おままごとで使えるように魚の絵をラミネートしたものを準備したり、段ボールで型を作った物を配置した。給食で魚が出た際に魚の名前や生態を話題に出す、これは命をいただいているね、等語りかけるなどした。おさかな先生による実物の魚の持参、間近で観察できる距離感の確保、匂い、質感、重さを感じられるよう安全に配慮した場の設定。寿司屋ごっこや解体ショーを継続的に遊べる素材を配置した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・ 図鑑や魚の体のつくりがわかる本を手にとることが出来るように準備し、興味や関心を持って調べられるようにした。
- ・ 給食で魚が出た際は、なんと言う名前の魚かを話題にしたりどこで獲れるのか等の話題を出して探究心を高められるようにした。
- ・ 園内行事では寿司屋を選択、寿司屋を行う際には何が必要か考えたり発表したり、主体性をもって発言できるよう促した。
- ・ 解体ショーを見たことがない児に対しては、動画を見たり保育者や見たことのある児が手本を見せるなどして、前向きに取り組みたいと思えるよう環境を整えた。
- ・ おさかな先生参加時には魚の心臓やエラなどを見せてもらい、自分たちと同じように臓器がある事を知って命があることをより実感できるようにした。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・ 日頃より魚に強い興味を持つ子どもの存在により、クラス全体として魚への興味関心が高かった。
- ・ 給食時「これは何ていう名前の魚?」「少し硬(又は柔らか)いけどどうして?」
- ・ 解体ショーの動画や、おさかな先生での解体時「血が沢山出てる」「痛いのかな」「死んじゃってるからもう痛くないよ」「これが心臓?」「小さいね」「動いてないから死んだってこと?」
- ・ 切り身になる様子を見て「スーパーで売ってるやつだ」「こうやって作るんだね」
- ・ 喫食時「命に感謝だね」「命をいただくから、いただきますなんだね」



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもたちは魚を単なる「食べ物」としてではなく、「命」として捉えようとしており「命をいただくからいただきます、なんだよね」「命に感謝だね」等友だち同士で思いや学びを共有する姿が見られた。魚の解体の場面では真剣な表情で観察し、「さっきまで泳いでたのかな」「何を食べていたの?」といった問いが自然に生まれていた。また、活動後のごっこあそびや製作活動においても解体ショーを再現する姿が見られ、体験が子ども自身の中で再構成され、遊びへと広がっていることがわかった。